

河跡湖

かつての川の跡を、当時に近い姿で残している河跡湖。まさに川島の地形の移り変わりを知る貴重な遺跡といえるだろう。この一帯は、植物や昆虫、野鳥、淡水魚などの宝庫。そこで川島町では、河跡湖と鉄砲川を含む周辺を、エコロジカル・パーク（略してエコ・パーク）として整備計画を進めている。人工の遊具や整った区画は必要ない。ありのままの自然と、その生態系を尊重した空間こそが、未来の憩いの場の理想の姿なのかもしれない。



●河跡湖の春

河畔がもっとも美しく彩られる季節。鉄砲川に沿って町民会館の近くまで続く桜並木は、そぞろ歩きを楽しむ人で大にぎわい。水もぬるみはじめるころから、川面には、フナやモロコなど、さまざまな淡水魚の姿を見ることができる。



●河跡湖の夏

昆虫採集や魚釣りを楽しむ子どもたちの歓声と、せみしぐれが河畔に響きわたる夏。今、鉄砲川にホタルをよみがえらせようと、川の浄化運動が進められている。将来、水面を飛び交う美しい灯が、初夏の風物詩となることだろう。



●河跡湖の秋

トンボの群棲地として知られる河跡湖。夏から秋にかけて、さまざまな種類のトンボが水辺を飛び交う。秋も深まるにつれて、水面は樹木の色を映して紅に染まっていく。はるか北の国から、渡り鳥の飛来するころ、冬の足音が聞こえてくる。



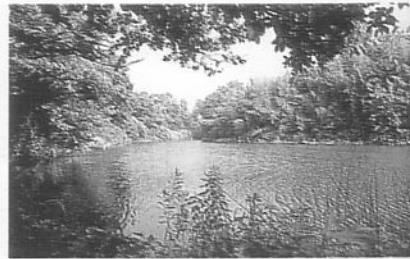
●ヨシの群生

河跡湖でもっとも多く見られる水生植物がヨシ。カヤツリグサなど多数の草本を含んだヨシの群落には、魚たちが身を休め、オオヨシキリをはじめとする野鳥たちがやってくる。ヨシはさまざまな生き物の生命を育てている。



●梓下池

木曾川の旧流路跡。かつては地面から水が湧き出していた。雁場池と三ツ屋池のほぼ中間にある。池の周辺にはハウス（ナラ・クヌギなどの総称、ハハソのなまり）の大木が生えていることから、こう呼ばれている。



●三ツ屋池

梓下池と同様、鉄砲川の流れの一部。鉄砲川が本流に入りこむ付近にある。池までの水路はヨシの群落でおおわれ、左岸には竹林、右岸にはネムノキ、ムクノキ、ヤナギも群生している。近在では釣り名所として知られている。

「第4章 編入される川島地区にかかる主要事業のまとめ」より

○橋梁事業について

